

【ご意見等】石見神楽伝承館について**(R8.2.8 受付)**

今更遅いのかもかもしれませんが、神楽に特化したハコモノは本当に要らないと思います。同じように多額の税金を使われるのであれば、神楽に興味がある人だけでなくそうでない人もみんなが集える場所としての施設なら賛成です。

三つ桜跡地は立地もいいので、パレット江津のような施設を作って欲しいと切に思います。子どもからお年寄りが行き来でき定期的なイベント開催で浜田駅前の商店街の活性化も期待できます。隣の市によいお手本があるのに、とってしまいます。

私も中学生の時にくわの木やお面や神楽の衣装を作っている工房に見学に行ったことがあります。実際に職人さんの声や、仕事ぶりを聞いたり見たりすることが一番伝承になると考えます。ハコモノを大金かけて作らなくても方法はたくさんあるのではないのでしょうか。作ったところで、神楽に興味がなければそもそも行かないし行ったところで「すごいなあ」で終わるんじゃないだろうか。それに意味はあるのだろうかと思います。本当に伝承したいことって、そこですか？

技術の伝承や職人たちの思いを受け継ぐ人が1人でも増えてほしい。未来にも石見神楽を残したい。という思いであれば、工房の見学、職人の声を市民に届ける、職人になるサポート体制をつくる、副業というカタチでスタートできるようにもして欲しいです。

そこにはお金をかけてもらっても構いません。ハコモノ作るよりも安く済むと思います。

収蔵、研究、展示などは既存の施設で可能ではないですか？

多くの反対の声を聞きます。私たちの税金です。無駄金にしないでいただきたい。

【回答】**(R8.2.10 回答)**

神楽に特化した「ハコモノ」建設についてのご懸念、パレットごうつのような多世代が交流できる施設を求める声、また職人の技術継承を重視すべきとのご意見、大変重く受け止めております。

直近の令和7年12月定例会議の一般質問においても、本件は大きな議論の焦点となりました。議員からは、浜田駅周辺のグランドデザイン策定と並行し、単なる展示施設ではなく「市民が日常的に集い、にぎわいを生む場所」としての在り方を求める質問が相次ぎました。市からは、現在「石見神楽保存・伝承拠点基本構想検討委員会」にて、三桜酒造跡地を含む拠点の機能や運営体制について、将来を見据えた慎重な議論を進めているとの報告があったところです。

また、ご提案いただいた「技術の伝承」や「職人へのサポート」についても、神楽関連産業を市の財産として捉え、後継者を育成する視点から議論が交わされております。

市民の皆様の大切な税金が、将来の浜田市にとって真に価値あるものとなるよう、議会としてもしっかりと市の計画を注視し、議論を深めてまいります。

今後とも、引き続き議会へのご支援ご協力をお願い申し上げます。